

7 最後は、パックに戻しましょう。

卵をパックに戻したとき、どんな気持ちになりましたか。

☆ 実際には、赤ちゃんは卵ではありません。泣いたり、笑ったり…ウンコだってシッコだって平気です。ミルクを吐き出すこともしばしばです。

☆ 機会があれば、実際に子育て真っ最中のお母さん、お父さん（皆さんからすれば、おねえさん・おにいさん・先輩といった年頃の若い親たち）から、直接話を聞いてみましょう。

女性の方は、許してもらえれば、妊婦さんのおなかをそっと触らせてもらいましょう。

<学習を振り返りましょう>

自分の親に対して、どう思いましたか。

自分のなかで、わかったこと、考えが変わったことがあれば、書いてみましょう。

お問合せ：〒730-0052 広島市中区千田町三丁目7-47 広島県立生涯学習センター
TEL：082-248-8848 FAX：082-248-8840 E-mail：sgcshinkou@pref.hiroshima.lg.jp

審つて、話して、自ら気づく

「親の力」をまなびあう学習プログラム

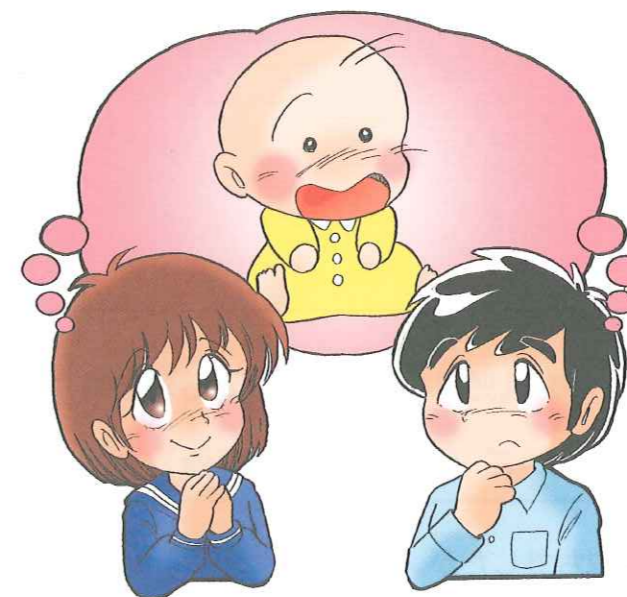
「自分の親は将来の自分」期（子育て準備期）

「親はウルサイけどアリガトウ」編

（中学・高校生などの青少年を対象としたプログラム） その1

おぎやーってスゴイ！

～生まれてきた自分、やがて生まれてくる命～



イラスト：うじな かずひこ

中学生・高校生など青少年の時期は、自分の親でさえも口うるさく感じる場合があります。

「親になるって、どんな気持ちなのだろう」「親になったら、どんな生活が待っているのだろう」…想像力を働かせて、ちょっぴり「親」になってみませんか。

自分と親との関係にも、少しは変化が現れるかも！？

<やってみましょう>

目の前に卵があります。

それは、あなたの子どもです。

1 卵を手で温めましょう。

(温めながら、もうじき生まれてくる
子どもの名前を考えましょう。)



お母さんのおなかに十月十日（とつきとおか）、本日めでたく御誕生。

やっと会えたね！ 私の赤ちゃん！！

※妊娠期間は慣用的に「十月十日」と言い習わされていますが、実際には様々な場合があります。

2 温まった卵に、名前を書きましょう。

命名「」
どうしてその名前にしたのですか。



授乳におむつ交換…忙しかった乳児期も過ぎ、今日から幼稚園（保育所）へ。

3 名前を書いた卵を、かご（幼稚園・保育所）に入れましょう。

手離すとき、どんな気持ちでしたか。



小学校、中学校…その先も、進学、就職と、これからこの子はいろんな人にもまれながら、一人前の大人に成長してゆくのでしょう。

4 二～三人ずつ、自分の卵をかごから取り出します。

※人数が多いときは、数人ずつ取り出します。

5 みんなで輪になって、その卵を回しましょう。

※左手をお皿にし、左隣の人から卵を載せてもらったら、右手で持ち上げて、右隣の人のお皿に渡しましょう。「もしもしかめよ」などの歌を歌いながら回してもいいですね！

落とさないように・・・



6 一周回ったらかごに戻しましょう。

※次の人、次の人と、全員の卵を回しましょう。

自分の卵、他人の卵を回しているとき、どう感じましたか。